

中河内川下流部の 全面魚道



右の「和田島頭首工」（カスケード全面魚道工＋ハイブリット魚道工）は、平成9年に興津川に完成した全国初のカスケード式頭首工です。この魚道は全国的にも高く評価され、その後もいくつかの魚道が興津川水系に設けられています。今後も各内水面漁協と情報交換を重ね、組合事業に活かしていきたいと思えます。

大井川最大の鮎の関所、 塩郷えん堤



川根本町下泉地先

興津川水系の 魚道視察



興津川「鮎の石松」

4月14日、昨年完成した興津川支流中河内川の全面魚道視察のため、興津川漁協を訪問しました。柿澤組合長と大岡事務局長に出迎えられ、各種魚道や興津川河口付近の近年の形状変化、河川の問題点や取り組みなど様々なお話を聞くことができました。

左は、中河内川合流点より上流約200mに設置された全面魚道です。（撮影時は水量多め）。この魚道により7mの高低差が解消され魚類が遡上しやすくなりました。上流部の石質が柔らかいため、流石が少なくこの工法が用いられています。

和田島えん堤 （カスケード方式）



カスケード方式の魚道はポケットが作られ、出水時に堆積土砂が排出される構造になっている。自然の力を利用しているため劣化も小さく、土砂排出などのメンテナンスも少なくすむ。